

No.	基本目標	[業務事業] 具体的施策	今年度の取組に対する自己評価	学校関係者の評価
1	保育内容の充実	[特色を活かしたの質の向上] 大学との連携・ICT 全体研修・個人研修の推進 幼小連携の推進	年間の保育計画から月案・週案を立てて提出し、日々の評価を行う事で保育の充実を目指した。計画の中に大学との連携や年長組のICT保育を組み入れ特色ある保育を実施した。全体研修では姉妹園合同研修を行い「わらべうた」「ヴォイストレーニング」「フルートコンサート」「特別支援教育研修」を行い互いに士気を高め学びを深めた。個人研修では個人の課題に沿った研修を選びそれぞれが学び、報告会で学びの共有を行った。幼小連携では年度当初に年間の計画を小学校と話し合い合計4回の交流を行った。	附属ならではの強みで保育している。全体研修や外部の研修で先生達の悩み等内部で解決できないものも外部で勉強したりしている。研修の結果を共有して学び職員同士の風通しのよさも感じる。
2		[園の特色を生かした教育課程の充実] 学年会議の開催 次年度カリキュラムの決定	毎週1回学年会議を行い、前週の評価・次週の計画について話し合い保育計画を立てた。学期末毎に教育課程の見直しをし、訂正・加筆を加え現在の園児の姿に沿ったものに作りなおしていった。年度末には次年度カリキュラムを決定する為に1年分の教育課程の見直しを行う。	大人数の中きちんと計画したり研修に参加したりしていて安心できる。日々の保育が計画に基づいて行われている。
3	大学・地域との連携	[学園内設置校との連携の充実] 体操教室・リトミックの実施 学生との連携の実施 大学教員とのコラボ研究の実施	体操教室・リトミックは毎週1回行った。学生との連携としては、女子大からボランティアやバイトを雇い日々の保育の手助けとなったり、行事の手助けとなったりした。学生側としては学びにもなった。また、共立大学においては地域創造学科から預かり保育に学生を招き、保護者の迎えを待つ園児達に楽しさを与えてもらった。コラボ研究では「特別に支援を要する子どもに対する援助法」をキーワードに学生と共に研究を進めている。オープンキャンパスでは子ども達が盆踊りを披露し、夏祭りを楽しむ姿を見てもらい、附属大学への入学志願者へのアピールになり、子ども達は夏祭りを楽しんだ。学園祭でもマーチングを披露し、たくさんの学生に観てもらい附属幼稚園としてのアピールをした。	附属の特色を生かした保育をしているところがとてもよいと思う。子どもも自宅に帰って来て楽しかったと話ず様子を見て習い事している位の気持ちになる。
4		[地域との交流の推進] 田植え・稲刈り・餅つきの実施 折尾まちづくり記念館との職員交流 八幡図書館折尾分館との交流 地域内小規模園・姉妹園との交流 地域のデイ・ケアとの交流	地域の方のご協力を得て田植え・稲刈り体験を行うことでその後おにぎりパーティーで食育にもなった。また餅つきではなかなか地域との交流にまでいたらなかったので次年度には地域につなげていきたい。八幡図書館折尾分館からは、未就園児教室に向向いてもらい絵本の読み聞かせをしてもらった。季節に沿う絵本を選んでもらい、未就園児教室に絵本の楽しさを伝えてもらった。地域内小規模保育園との連携では小規模保育園が幼稚園に訪問し、幼稚園の体験をした。姉妹園交流として互いの園を訪問し、園児同士で交流をした。地域のデイ・ケアとの交流ではハロウィンの時期にご高齢者が仮装をして幼稚園を訪問し園児と楽しい交流をした。	地域の中で子どもは育つので小学校の交流や園外保育等でたくさん経験できることが良い。図書館では来館された方にしかアプローチできないので幼稚園と連携して未就園児親子に読み聞かせができるところがとても良い。
5	幼稚園運営の強化	[園児募集・広報の強化] HPでの積極的な情報発信 未就園児教室の充実 預かり保育・子育て相談の実施	HPは月に一度の更新を目指し幼稚園の様子を発信してきた。在園児保護者にはInstagramを使用して日々の保育の様子を発信した。年長組にはお泊り保育の様子をYouTubeを使って発信した。未就園児教室は、幼稚園の様子を毎月のお便りに写真入りで載せてお知らせし、内容は昨年度の反省から見直し、より充実した物になるよう努力した。また、入園を控え様々な心配事や子どもの発達についての相談を常に受けて来た。在園児の保護者からの子育て相談も常に受け特に要支援児については、都度保護者からの聞き取りをしながら個別に保護者との関係構築を行い専門機関へとつないでいった。	年長組のお泊り保育の様子はユーチューブを使って2日間の流れ等わかってとても良かった。行事だけでなく日々の保育の様子等も発信して欲しい。
6		[安全対策の徹底] 運転員の研修の実施 園児の交通安全教室・避難訓練の実施 戸外活動・災害時の安全対策 遊具の点検・建物の点検 職員に対する危機管理の研修	園児の火災や地震を想定した避難訓練や、不審者対策での防犯訓練を定期的に行った。年長組は小学校登校を見据えドライビングスクールでの交通安全教室を行った。小さい組に関しては防犯訓練と一緒に折尾警察署交通課の方からの交通安全教室を行った。戸外活動では常に安全に気を付けながら何度も人数確認を行いながら取り組んだ。建物の点検は常に行い、不具合があるところがあれば管財施設課を通して業者に点検・修理をもらった。職員に対しての危機管理研修は、他の幼稚園・保育園の危険な事故等を我が身に置き換えた研修をその都度行った。運転員の研修についてはドライビングスクールで実技・講習共に丸一日かけて行った。バスの置き去り防止については、運転員と添乗職員との2重チェックと置き去り防止装置を使って気を付けて来た。	日々の取り組みの中では安全面に関してはケースバイケースで難しいと思うが安全を第一に考えて欲しい。バスの送迎等長きに渡り一度も事故もなく子ども達に配慮もしてくれた知らない人の車に乗せる事で心配があったが、ありがたい。